

高知県感染症発生動向調査（週報）

2017年 第3週（1月16日～1月22日）

★お知らせ

○インフルエンザに気を付けて！

幡多、高知市で警報値である30.0を超え、高知県全域で注意報値である10.0を超えています。

定点医療機関当たりの報告数は第2週の14.25から第3週では28.75と急増しています。

県全域で増加し、幡多、高知市では警報値を超え、県全域と中央西、中央東、安芸、須崎では注意報値を超えています。迅速検査ではインフルエンザA型が99.5%、B型0.5%となっています。

病原体検出情報では第3週に搬入された検体で、高知市、須崎、幡多からInfluenza virus A H3 NTが計5件検出され、また須崎からInfluenza virus A H1pdm09が1件検出されています。

学校等における集団発生の報告でも休校や学年、学級閉鎖の報告が増加しています。

全国でも定点医療機関当たりの報告数が第1週の10.58から第2週では15.25と引き続き増加しているために注意が必要です。

国内のインフルエンザウイルスの検出状況は、直近の5週間（2016年第50～2週）ではAH3 亜型の検出割合が最も多く91.88%、次いでB（ビクトリア系統）が3.57%、AH1pdm09が2.92%、B型（山形系統）1.3%、B（系統不明）が0.32%の順でした。

インフルエンザの流行期に入っていますので、外出後の手洗いなどの感染予防を心がけ、症状がある方は咳エチケットに心がけ、早めに医療機関を受診しましょう。また、適度な湿度の保持、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取、人ごみを避けるなどの対策も有効です。

学校等における集団発生

※感染症情報収集システム

保健所		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多
休校	第3週	1	0	0	0	1	1
	累計	1	0	0	0	1	1
学年閉鎖	第3週	3	0	3	0	0	2
	累計	3	1	4	0	1	2
学級閉鎖	第3週	1	0	4	0	0	0
	累計	1	0	6	0	0	0

※第2週に須崎保健所管内から学級閉鎖1件の報告がありましたが、報告校の当該学年は1学年1学級であったため、累計を学年閉鎖1件に修正しました。

インフルエンザの飛沫感染対策【咳エチケット】

インフルエンザの主な感染経路は咳やくしゃみの際に口から発生される小さな水滴（飛沫）による飛沫感染であることから、感染予防のため以下の咳エチケットに心がけてください。

- (1) 普段から皆が咳エチケットを心がけるとともにくしゃみを他の人に向けて発しないこと。
- (2) 咳やくしゃみが出るときはできるだけマスクをすること。
- (3) 手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗うこと。 等

■ 飛沫感染対策ではマスクは重要です。特に感染者がマスクをすることが、感染の拡散を抑える効果が高いと言われています。

- 厚生労働省 「平成28年度今冬のインフルエンザ総合対策について」
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/influenza/index.html>

- 厚生労働省 「平成28年度インフルエンザQ&A」
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/qa.html>

○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎に気を付けて！

須崎では注意報値である4.0を超えています。

定点医療機関からの報告数は第2週の1.50から第3週では1.60と横ばいです。県全域から報告があり、須崎、中央西、幡多、安芸で増加し、須崎では注意報値である4.0を超えています。

定点医療機関からのホット情報で9例の報告があり、感染症情報収集システム※でも16例の報告があることから、注意が必要です。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことによる飛まつ感染、あるいは、細菌が付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染が主な感染経路です。

乳幼児では咽頭炎、年長児や成人、特に妊婦では扁桃炎が現れ重症化することもあるため、うがい、手洗いなどの一般的な予防法を励行しましょう。

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第2週の7.23から第3週では8.70と増加しています。県全域から報告があり、中央西、中央東、安芸、幡多で増加しています。病原体検出情報では臨床診断名感染性胃腸炎として第2週に搬入された検体で、中央東からNorovirus GII NTが2件、幡多からRhinovirusが1件検出されています。

定点医療機関からのホット情報でノロウイルス5例の報告があり、感染性胃腸炎が増えているとの報告もあります。感染症情報収集システム※でも40例の報告があることから、今後も引き続き注意が必要です。

ノロウイルスなどのウイルスを原因とする感染性胃腸炎は嘔吐、下痢が主症状ですが、その他、発熱、腹痛などの症状があります。特に、乳幼児や高齢者、体力の低下している方は、下痢、嘔吐などで脱水症状を起こすことがありますので、早めに医療機関を受診してください。通常は1週間以内に回復しますが、症状消失後も1週間程度、長いときには1ヶ月程度ウイルスの排出が続くことがあります。

特にノロウイルスを原因とする場合、学校や社会福祉施設など集団生活の場で大規模な流行となることもあり注意が必要です。

予防には手洗いが有効です。帰宅時や調理・食事前、トイレの後には石けんと流水でしっかりと手を洗いましょう。感染した人の便やおう吐物には直接触れないようにし、マスクや使い捨ての手袋を着用し、次亜塩素酸ナトリウムまたは、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用方法を確認したうえで、キッチンペーパーなどを使用して処理しましょう。調理をする場合には、十分に加熱しましょう。

●厚生労働省 「ノロウイルスに関する Q&A」

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

●厚生労働省「ノロウイルス等の食中毒予防のための適切な手洗い（動画）」

<https://www.youtube.com/watch?v=z7ifN95YVdM&feature=youtu.be>

●衛生研究所 「高知県ノロウイルス対策マニュアル」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/norovirus.html>

○マイコプラズマ肺炎に気を付けて！

基幹定点当たりの報告数は第2週の0.75から第3週では0.63と横ばいですが、中央東で増加しています。定点医療機関からのホット情報では23例の報告があり、感染症情報収集システム※でも15例の報告があるなど引き続き報告数の多い状態であることから、注意が必要です。

感染経路は患者の咳のしぶきを吸いこんだり、患者と身近で接触したりすることにより感染すると言われています。保育園や幼稚園、学校、あるいは家庭内等での伝播がみられます。

予防対策としては、手洗いと咳エチケットです。

※ 感染症情報収集システム：県内小中高等学校における疾病別患者数情報システム

☆ダニの感染症（日本紅斑熱・SFTS・つつが虫病）に注意！

日本紅斑熱やSFTS（重症熱性血小板減少症候群）は比較的大型（吸血前で3～4mm）のマダニが、つつが虫病はツツガムシというわずか0.3mmほどのダニの幼虫が媒介する感染症です。

すべての、マダニやツツガムシが病原体を持っているわけではありませんが、これらのダニに咬まれないようにすることが感染の予防になりますので引き続き、注意が必要です。予防するためのワクチン等はありません。

マダニやツツガムシは野外に生息しています。野山や畑、草むらなどに出かけるときは十分注意しましょう。長袖・長ズボンを着用し、シャツの裾はズボンの中に入れ、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる等、肌の露出を少なくし、ダニ用の忌避剤を使用する等して、ダニに咬まれないようにしましょう。

昨年1月にはSFTSの患者報告もありました。冬場でも注意してください。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～2週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。また受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出て下さい。

- 高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

- 高知県衛生研究所 マダニによる感染症の注意喚起パンフレットを作成しました。

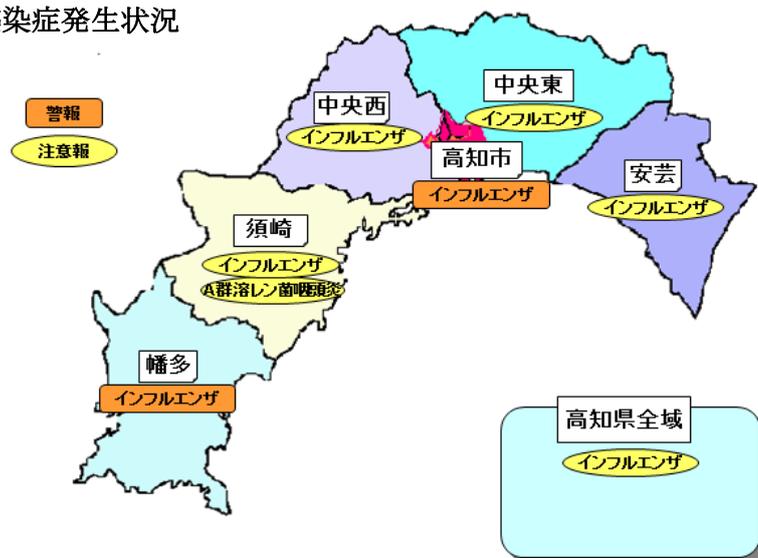
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2016061300063.html>

★県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患） ↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減
3週（1月16日～1月22日）

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
インフルエンザ	↑	28.75	県全域で増加し、幡多と高知市では警報値を超え、県全域、中央西、中央東、安芸、須崎では注意報値を超えています。
感染性胃腸炎	↗	8.70	中央西、中央東、安芸、幡多で増加しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	1.60	須崎、中央西、幡多、安芸で増加し、須崎では注意報値を超えています。
RSウイルス感染症	→	0.83	中央東、安芸で増加しています。
水痘	↓	0.33	中央東で増加しています。
伝染性紅斑	↑	0.33	幡多、中央西、中央東、高知市で増加しています。

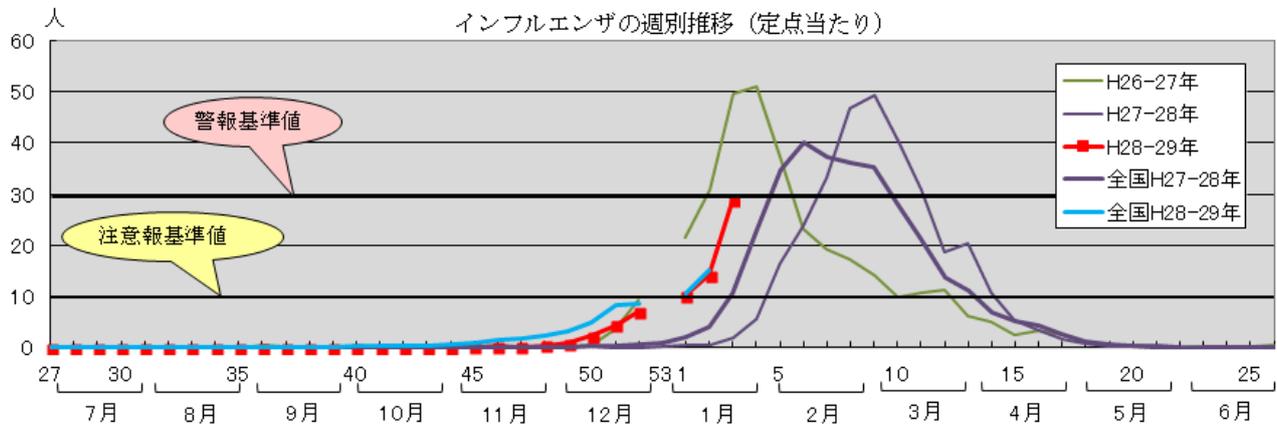
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

○インフルエンザ 第3週：28.75 (注意報値：10.00 警報値：30.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 28.75 (前週：14.25) と急増しています。幡多 41.25 (前週：13.63)、高知市 31.00 (前週：20.56)、中央西 28.40 (前週：13.20)、中央東 24.91 (前週：8.73)、安芸 21.00 (前週：12.00)、須崎 13.50 (前週：9.00) で増加しています。幡多と高知市で警報値を超え、県全域、中央西、中央東、安芸、須崎では注意報値を超えています。



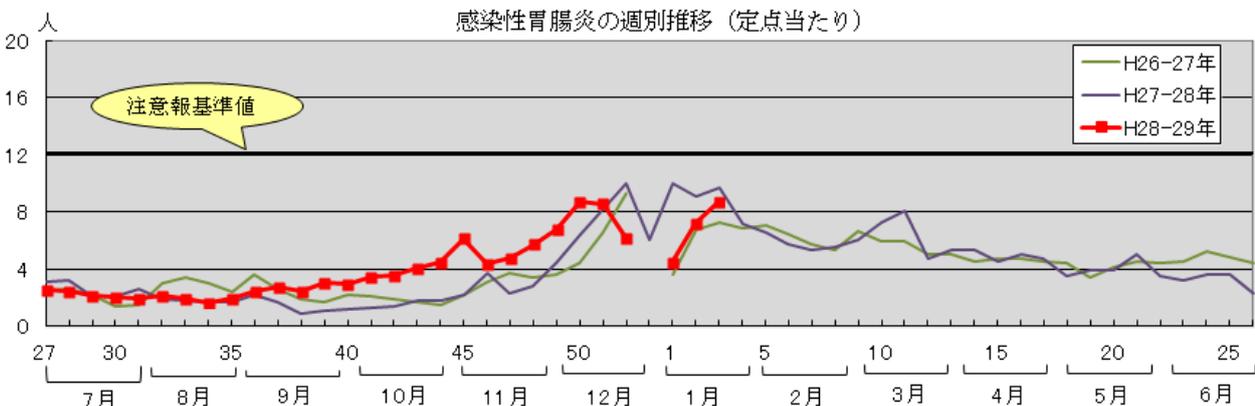
○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 第3週：1.60 (注意報値：4.00 警報値：8.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 1.60 (前週：1.50) と横ばいです。須崎 6.00 (前週：3.50)、中央西 1.67 (前週：1.33)、幡多 0.60 (前週：0.20)、安芸 0.50 (前週：0.00) で増加しています。



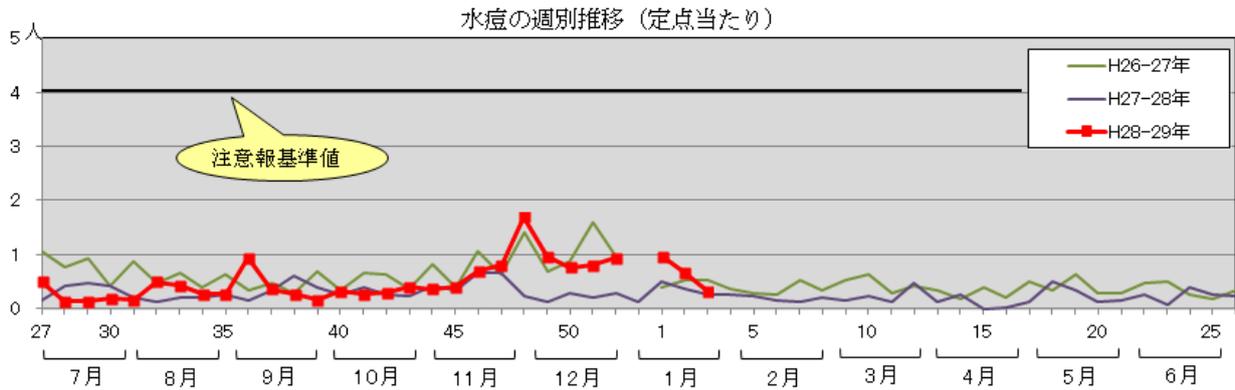
○感染性胃腸炎 第3週：8.70 (注意報値：12.00 警報値：20.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 8.70 (前週：7.23) と増加しています。中央西 11.67 (前週：6.00)、中央東 9.29 (前週：6.14)、安芸 9.00 (前週：8.00)、幡多 9.00 (前週：7.80) で増加しています。



○水痘 第3週：0.33（注意報値：4.00 警報値：7.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 0.33（前週：0.67）と急減していますが、中央東 0.86（前週：0.57）で増加しています。



※グラフの途切れについて

H27-H28年は第53週までであるため、グラフ横軸に第53週を挿入しています。

そのため、H26-H27年とH28-H29年のグラフ第52週～第1週間に途切れが生じています。

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
3	インフルエンザ	50	女	須崎	Influenza virus A H1pdm09
3	インフルエンザ	9	男	高知市	Influenza virus A H3 NT
3	インフルエンザ	4	男	高知市	Influenza virus A H3 NT
3	インフルエンザ	12	女	須崎	Influenza virus A H3 NT
3	インフルエンザ	3	男	須崎	Influenza virus A H3 NT
3	インフルエンザ	14	女	幡多	Influenza virus A H3 NT
3	百日咳	6	男	須崎	<i>Bordetella pertussis</i>

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
2	咽頭結膜熱	1	男	中央東	Adenovirus 1
2	-	1	男	幡多	Adenovirus 1
2	腸重積症	9ヶ月	男	中央東	Adenovirus 3
2	-	1	女	中央東	Cytomegalovirus
2	口内炎、発疹（水泡）	5ヶ月	女	中央東	Cytomegalovirus
2	-	1	女	幡多	Epstein-Barr virus
2	感染性胃腸炎	1	男	中央東	Norovirus GII NT
2	感染性胃腸炎	8ヶ月	女	中央東	Norovirus GII NT
2	呼吸器疾患	3	女	中央東	Rhinovirus
2	感染性胃腸炎	5	男	幡多	Rhinovirus
1	不明発疹症	1	男	須崎	Coxsackievirus A2
51	-	1	男	幡多	Adenovirus 2
51	急性咽頭炎	0ヶ月	女	幡多	Coxsackievirus B1
51	ヘルパンギーナ	11ヶ月	男	中央東	Human herpes virus 6
51	-	1	女	中央東	Rhinovirus
47	手足口病	1	男	中央東	Enterovirus NT

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	2	100歳代女	幡多
	結核	1	3	60歳代女	高知市
5類	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	1	80歳代男	高知市
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	2	60歳代男	中央西

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情 報
中央東	あけぼのクリニック	マイコプラズマ感染症 5例 (7歳、8歳2人、9歳、10歳)
		インフルエンザ A 35例
	高知大学医学部附属病院 小児科	(病棟) ヒトメタニューモニア気管支炎 1例 (1歳女)
		(病棟) RSV脳症 1例 (3歳女)
	野市中央病院小児科	1月16日(月) マイコプラズマ肺炎 2例 (7歳男、10歳女) A型インフルエンザ 1例 (7歳男:ワクチン未)
		1月18日(水) A型インフルエンザ 1例 (12歳男:ワクチン済み)
		1月19日(木) A型インフルエンザ 2例 (3歳女:ワクチン未、14歳女:ワクチン済み)
		1月20日(金) A型インフルエンザ 1例 (10歳男:ワクチン未)
		1月21日(土) A型インフルエンザ 3例 (3歳女、4歳男、9歳男) ワクチン未
	早明浦病院小児科	A型インフルエンザ 15例 (1歳から12歳)
溶連菌感染症 2例 (5歳:他院に転院、10歳)		
高知市	けら小児科・アレルギー科	マイコプラズマ肺炎 6例 (2歳、5歳3人、7歳、8歳)
	高知医療センター小児科	RSウイルス感染症 2例 (4ヶ月男、1歳男)
		インフルエンザウイルス 5例 (1歳女、2歳男、4歳男女、6歳女)
	三愛病院小児科	アデノウイルス感染症 2例 (4歳女、8歳男)
		マイコプラズマ肺炎 5例 (2歳女、7歳男、8歳女、11歳男、13歳女)
	福井小児科・内科 ・循環器科	インフルエンザ A型 62例、B型 0例、ワクチン接種済 14例
		RSウイルス感染症 1例 (1歳男)
		溶連菌感染症 7例
感染性胃腸炎が増えている。 流行性耳下腺炎 1例 (4歳女:ワクチン未接種)		
細木病院小児科	ノロ 5例 (2歳男3人女、3歳女)	
中央西	くぼたこどもクリニック	マイコプラズマ肺炎 1例 (11歳男)
		インフルエンザ A 4例 (3歳男:須崎、9歳男:須崎、11歳男:須崎、13歳女:須崎)
	日高クリニック	マイコプラズマ気管支 2例 (8歳男女)
須崎	もりはた小児科	マイコプラズマ肺炎 1例 (5歳女)
		インフルエンザ 22例 全例 A型
		百日咳 1例 (6歳男) 2週
幡多	さたけ小児科	マイコプラズマ 1例 (2歳女)
		インフルエンザ 77例 全て A型
	幡多けんみん病院小児科	hMPV陽性 1例

★全国情報

第1号（1月2日～1月8日）

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核187例

3類感染症：細菌性赤痢3例、腸管出血性大腸菌感染症9例

4類感染症：E型肝炎2例、A型肝炎1例、つつが虫病3例、デング熱3例、マラリア1例、
レジオネラ症20例

5類感染症：アメーバ赤痢8例、ウイルス性肝炎4例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症9例、
急性脳炎6例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症6例、後天性免疫不全症候群5例、
ジアルジア症1例、侵襲性インフルエンザ菌感染症6例、侵襲性肺炎球菌感染症44例、
水痘（入院例に限る）3例、梅毒26例、破傷風1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、
麻しん2例

報告遅れ：E型肝炎1例、エキノコックス症1例、つつが虫病3例、デング熱1例、レジオネラ症2例、
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症5例、急性脳炎8例、
劇症型溶血性レンサ球菌感染症2例、水痘（入院例に限る）4例、梅毒11例、
バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、風しん1例、麻しん1例

★注目すべき感染症

◆ 感染性胃腸炎

感染性胃腸炎は多種多様な原因によるものを包含する症候群名である。その多くにウイルス感染（ノロウイルス、ロタウイルス、サポウイルス等）を原因とするものが含まれる。

ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、特に冬季に流行する（ノロウイルスの流行 2010/11～2013/14シーズン）。

ノロウイルスはRNAウイルスで、GI～GVIIの遺伝子群（genogroup）に分けられ、GIとGIIが主にヒトに感染する。ノロウイルスの感染経路としては、患者の糞便や嘔吐物からヒトの手指を介した接触感染や、家庭や施設などヒト同士が接触する機会が多いところでのヒトからヒトへの飛沫感染、家庭内調理を含む感染した食品取扱者（無症状病原体保有者を含む）を介して汚染された食品を食した場合、汚染されていた食品や水を摂取した場合などがあり、その感染力は非常に強い。感染から発症に至る潜伏期間は主に24～48時間で、主な症状は吐き気・嘔吐及び下痢である。ノロウイルスは糞便および吐物中に大量に排出され、症状消失後も数週間糞便中への排出が続き、1カ月以上排出が続く事例も報告されている。特に乳幼児や高齢者等では、嘔吐、下痢によって体力を消耗し、脱水症状を引き起こすこともある。現在有効なワクチンはなく、治療法は対症療法となる。

感染症発生動向調査では、感染性胃腸炎は全国約3,000カ所の小児科定点からの報告に基づき、毎週の情報が監視されている。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は2016年第41週以降、急速に患者数が増加した。地理的な流行の推移をみると、第41週以降の当初は報告の多くが南・西日本からなされ、その後全国的に多くの報告がなされるに至った。定点当たり報告数の上位5位を都道府県別にみると、第41週は、島根県、熊本県、大分県、広島県、鹿児島県、第44週は、広島県、三重県、島根県、東京都、神奈川県、第47週は、宮城県、山形県、三重県、東京都、埼玉県、第50週は、山形県、宮城県、埼玉県、宮崎県、富山県であった。第50週（2016年12月12～18日）の定点当たり報告数は20.89となり（感染性胃腸炎の年別・週別発生状況）、2006年以降の過去10年間の報告のうち、1週当たりの定点当たり報告数では2006年の第50週（定点当たり報告数22.81）に次ぐ高い値であった。第50週以降は減少し、2017年第1週（2017年1月2～8日：2017年1月11日現在）では定点当たり報告数は5.31であった。2017年第1週の定点当たり報告数は大分県（15.11）、福井県（12.45）、宮崎県（11.94）、山梨県（10.58）、熊本県（10.42）の順となっており、広島県を除く46都道府県で前週の報告数を下回った。

2016年第41週～2017年第1週の年齢群別割合では4～5歳が22.0%、2～3歳19.8%、6～7歳14.9%、0～1歳14.5%の順となっている。男女別割合では小児（15歳未満）の年齢群において男性が53.8%とやや多かった。

ヒトに由来する感染性胃腸炎ウイルスとして検出された病原体の中では、ノロウイルスGIIが多くを占めた（週別病原体別感染性胃腸炎由来ウイルス、2016&2017年）。一部の自治体で検出されたノロウイルスの多くがGII.2であるとの報告もあった（千葉市、宮城県、茨城県・川崎市）。

ノロウイルスによる食中毒及び感染症の発生を防止するためには、ノロウイルスに関する正しい知識と予防対策等についての理解が欠かせない。厚生労働省は、「ノロウイルスに関するQ&A」、「ノロウイルス等の食中毒予防のための適切な手洗い（動画）」を作成し、手洗いや糞便・吐物の適切な処理等の感染予防対策の徹底を呼びかけている。また、「感染性胃腸炎の流行に伴うノロウイルスの感染予防対策の啓発について」を毎シーズン発出し（2016/17シーズンは2016年11月22日）、今シーズンは更に2016年12月21日に「感染性胃腸炎の流行状況を踏まえたノロウイルスの一層の感染予防対策の啓発について」を発出し、注意を喚起している。

厚生労働省では食中毒の患者並びに食中毒死者の発生状況を的確に把握し、また複雑な発生状況を解明することを目的として食中毒統計調査を実施し、発生状況について報告を行っている。調理従事者を介した食品汚染による食中毒を防ぐためには、手洗いや食品取り扱い施設での作業衣や手袋着用などを含めた基本的な衛生管理および調理従事者の健康管理の徹底が望まれる。食中毒の原因を早期に究明し拡大を防止するために、厚生労働省は2016年11月24日に「ノロウイルスによる食中毒の予防及び調査について」の通知を発出している。

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第3週 平成29年1月16日(月)～平成29年1月22日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第3週							計	前週	全国(2週)	高知県(3週末累計)		全国(2週末累計)
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H29/1/2～H29/1/22				H29/1/2～H29/1/15		
小児科	インフルエンザ		84	274	496	142	54	330	1,380 (28.75)	684 (14.25)	75,576 (15.25)	2,554 (53.21)	127,847 (25.86)		
	咽頭結核熱			1	1				2 (0.07)	5 (0.17)	906 (0.29)	12 (0.40)	1,890 (0.60)		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1	5	22	5	12	3	48 (1.60)	45 (1.50)	4,585 (1.45)	118 (3.93)	7,913 (2.51)		
	感染性胃腸炎		18	65	91	35	7	45	261 (8.70)	217 (7.23)	20,506 (6.48)	612 (20.40)	37,270 (11.82)		
	水痘			6	4				10 (0.33)	20 (0.67)	1,366 (0.43)	59 (1.97)	3,164 (1.00)		
	手足口病				3	1			4 (0.13)	3 (0.10)	447 (0.14)	8 (0.27)	962 (0.31)		
	伝染性紅斑			2	2	2		4	10 (0.33)	2 (0.07)	297 (0.09)	16 (0.53)	577 (0.18)		
	突発性発疹				3	1		1	5 (0.17)	10 (0.33)	1,208 (0.38)	22 (0.73)	2,036 (0.65)		
	百日咳								()	3 (0.10)	21 (0.01)	3 (0.10)	35 (0.01)		
	ヘルパンギーナ								()	()	103 (0.03)	()	184 (0.06)		
	流行性耳下腺炎			3	4			2	9 (0.30)	9 (0.30)	2,694 (0.85)	25 (0.83)	5,323 (1.69)		
	RSウイルス感染症		1	5	12			7	25 (0.83)	23 (0.77)	1,176 (0.37)	72 (2.40)	2,583 (0.82)		
	眼科	急性出血性結膜炎							()	()	11 (0.02)	()	16 (0.02)		
流行性角結膜炎				3				3 (1.00)	()	410 (0.59)	4 (1.33)	807 (1.17)			
基幹	細菌性髄膜炎							()	1 (0.13)	9 (0.02)	1 (0.13)	16 (0.03)			
	無菌性髄膜炎							()	()	13 (0.03)	()	29 (0.06)			
	マイコプラズマ肺炎		1	4				5 (0.63)	6 (0.75)	341 (0.72)	16 (2.00)	663 (1.40)			
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			1				1 (0.13)	()	10 (0.02)	1 (0.13)	13 (0.03)			
	感染性胃腸炎		1					1 (0.13)	2 (0.25)	27 (0.06)	3 (0.38)	50 (0.11)			
計 (小児科定点当たり人数)		104 (31.00)	363 (37.34)	646 (43.89)	186 (43.07)	73 (23.00)	392 (53.65)	1,764 (41.21)		109,706	3,526 (84.77)	191,378			
前週 (小児科定点当たり人数)		64 (20.00)	157 (17.43)	490 (34.45)	95 (22.86)	58 (20.00)	166 (24.83)		1,030 (25.49)						

注 () は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第3週							計	前週	全国(2週)	高知県(3週末累計)		全国(2週末累計)
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H29/1/2～H29/1/22				H29/1/2～H29/1/15		
小児科	インフルエンザ		21.00	24.91	31.00	28.40	13.50	41.25	28.75	14.25	15.25	53.21	25.86		
	咽頭結核熱			0.14	0.09				0.07	0.17	0.29	0.40	0.60		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.50	0.71	2.00	1.67	6.00	0.60	1.60	1.50	1.45	3.93	2.51		
	感染性胃腸炎		9.00	9.29	8.27	11.67	3.50	9.00	8.70	7.23	6.48	20.40	11.82		
	水痘			0.86	0.36				0.33	0.67	0.43	1.97	1.00		
	手足口病				0.27	0.33			0.13	0.10	0.14	0.27	0.31		
	伝染性紅斑			0.29	0.18	0.67		0.80	0.33	0.07	0.09	0.53	0.18		
	突発性発疹				0.27	0.33		0.20	0.17	0.33	0.38	0.73	0.65		
	百日咳									0.10	0.01	0.10	0.01		
	ヘルパンギーナ										0.03		0.06		
	流行性耳下腺炎			0.43	0.36			0.40	0.30	0.30	0.85	0.83	1.69		
	RSウイルス感染症		0.50	0.71	1.09			1.40	0.83	0.77	0.37	2.40	0.82		
	眼科	急性出血性結膜炎									0.02		0.02		
流行性角結膜炎				3.00				1.00		0.59	1.33	1.17			
基幹	細菌性髄膜炎								0.13	0.02	0.13	0.03			
	無菌性髄膜炎									0.03		0.06			
	マイコプラズマ肺炎		1.00	0.80				0.63	0.75	0.72	2.00	1.40			
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			0.20				0.13		0.02	0.13	0.03			
	感染性胃腸炎		1.00					0.13	0.25	0.06	0.38	0.11			
計 (小児科定点当たり人数)		31.00	37.34	43.89	43.07	23.00	53.65	41.21			84.77				
前週 (小児科定点当たり人数)		20.00	17.43	34.45	22.86	20.00	24.83		25.49						

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869